様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成２５年４月１日現在

機関番号：３２６６３
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2011～2012
課題番号：２３７００７４２
研究課題名（和文）　近世後期における庶民による伊勢参宮の旅の歩行距離に関する研究

研究課題名（英文）　Walking distance on a travel to Ise Shrine by people in the late Edo period

研究代表者
谷釜　尋徳（TANIGAMA　HIRONORI）
東洋大学・法学部・准教授
研究者番号：４０５２７９３３

研究成果の概要（和文）：本研究は、近世後期における庶民の伊勢参宮の旅に着目して、彼らが道中で歩いた距離の傾向を明らかにするものであった。
検討の結果、当時代における庶民の旅の歩行距離は、少なくとも 10 km程度、多い時には 70 km にもおよび、平均すると 1 日あたり 35 km前後であることがわかった。また、その歩行距離のペースは、全行程を通して大きく変動することはなく、比較的一定していたことが明らかとなった。
さらに、当時の旅は多人数で連れ立って歩くことが一般的であったため、混乱を緩和すべく、街道筋では歩行にまつわる諸秩序が暗黙裡に慣行化していた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this paper is to clarify trends in the distance walked during travels to Ise Shrine by people in the late Edo period.
The results showed that the average walking distance per day was around 35 km. On short days, they walked 10km, and on long days they walked 70 km.
The pace of the walk distance did not change through all trips of the travels.
The number of companions on travels by ordinary people in the late Edo period is many.
Therefore, the unspoken rule was decided on Japanese roads in the late Edo period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学
キーワード：スポーツ史、近世後期、庶民、旅、歩行距離

１．研究開始当初の背景

近世後期における庶民の旅は「徒歩」が主たる移動手段であった。今日と比べて移動手段が未発達な時代にあって、庶民が旅をするためには毎日のように長距離を歩き通し、無事に在地へ帰着するだけの健脚の持ち主でなければならなかった。

近世に旅をした庶民は、現代人が想像する以上に「歩く」ということを重要視していたに違いない。このようにしてみると、近世庶

民の旅の歴史は、彼らの「歩行」の解明を抜きにしては語れないといわねばならない。

ところが、こうした旅人の歩行運動に関する検討は、従来近世旅行史の分野を担ってきた交通史学や歴史地理学の関心事ではなく、先行する研究も行なわれていない。

また、スポーツ史の分野においても当該の検討が活発化することはなく、関連の研究成果は拙稿のみにとどまっている。

２．研究の目的

以上より、本研究は近世後期における庶民の伊勢参宮の旅に着目し、彼らが在地～伊勢間の道中で歩いた距離の傾向を明らかにすることを主な目的とした。

３．研究の方法

本研究においては、旅人の歩行距離を検討するための史料として、庶民が道中の模様を記録した「旅日記」を用いた。旅日記とは、旅程順に日付、天候、宿泊地、旅籠名、旅籠代、昼食代、間食代、訪問地とその若干のコメント、賽銭、渡船代、その他購入した品々の代金などが列記されたものであり、いわば金銭出納帳ないし日誌的な性格の史料である。全ての旅日記にこれらの項目が漏れなく記されているわけではないが、そのいずれかについて記録されているといってよい。

旅日記から旅人の歩行距離を抽出する方法は、下記の通りである。

旅日記の日毎の記述をみると、多くの場合は宿泊及び通過した宿場の名称が記されている。そこで、まずは研究対象とした区間に設けられていた宿場間の距離をそれぞれ明らかにしておいて、次いで当日出発した宿場から宿泊した宿場までの距離を求めるという方法を採用した。

なお、検討の結果に客観的な見地からの妥当性を担保すべく、分析対象とする旅日記の数量を可能な限り増やすことを心掛け、研究期間内に合計90篇余りの旅日記を蒐集した。

４．研究成果

研究期間内における成果の概要は、以下に列記する通りである。

（１）関東地方の庶民による江戸～伊勢間の歩行距離の検討

本研究において蒐集した90篇余りの旅日記を先に示した方法により分析した。

その結果、近世後期における関東地方の庶民による伊勢参宮の旅の歩行距離について（江戸～伊勢間が対象）、次の事柄が明らかとなった。

①旅人は、少ない時でも1日あたり10㎞程度の距離を歩いていた。
②旅人は、多い時には1日あたり70㎞を超える距離を歩くことがあった。
③旅人の歩行距離の平均値は、1日あたり35㎞前後であった。

（２）旅の全行程の歩行距離の検討

上記（１）の研究結果は、関東地方の庶民による伊勢参宮の旅の中でも江戸～伊勢間の往路ルートのみを対象として取り上げたものであった。しかし、当時の旅とは、往復路で異なるルートを選択して、できる限り多くの異文化世界に触れて見聞を広めようとすることが一般的であった。

そこで、旅の往復路の情報が詳細に記述されている旅日記を取り上げ、その全行程を分析対象として道中の歩行距離を検討した。

その結果、次の事柄が明らかになった。

①旅人の全行程における歩行距離の平均値は、1日あたり35㎞前後であった。

②旅人は、在地を出立してから再び帰着するまで一定のペースを保って歩き続けていた。
③旅人の歩行距離は、目的地（伊勢）への到達前後で顕著な違いが生じることはなかった。

（３）発掘した古文書にみる江戸～九州間の歩行距離の検討

史料調査の過程で、『江戸ヨリ唐津迄道中記』と題された古文書が発掘された。これは、佐藤保人という人物が弘化3（1846）年に江戸～唐津（現・佐賀県唐津市）間を歩いて旅した際の旅日記であったが、本研究ではこれを稀有な個別事例として位置づけ、その歩行距離の傾向について検討した。

その結果、以下の事柄が明らかになった。

①この旅における総歩行距離は約1113.5㎞であった。
②上記①を所要日数で割ると、この旅人は1日あたり約35.9㎞を歩いた計算となった。
③この旅人は、江戸～唐津間において一定のペースを保って歩き続けていた。

（４）旅の集団歩行と街道における歩行上の慣習の検討

近世後期の旅は、単独での「ひとり旅」は稀で、集団を組んで出掛けるケースが大半を占めていた。そこで、旅の歩行距離の解明と合わせて、その周辺的な事情として旅人の「集団歩行」についても検討した。

その結果、以下の事柄が明らかになった。

①近世後期における関東地方の庶民が伊勢参宮の旅の道中で同行した人数は、少なくとも2～3人、多い時には30～50人となり、平均すると13人程度で連れ立って旅をしていた。
②絵画史料から旅人の集団歩行時の隊形をみると、男性2人連れの旅では横並びであったが、同行者数が3人以上の場合は横に広がらないような配慮がみられた。
③当時の街道の道幅は狭かったため、複数の集団がすれ違う際の混乱を回避すべく、暗黙裡に「左側通行」の慣習が定着していた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

（１）谷釜尋徳：「近世後期における江戸～唐津間の旅のルートと歩行距離について―弘化３年『江戸ヨリ唐津迄道中記』の分析から―」『運動とスポーツの科学』18 巻 1 号、2012 年 12 月、pp. 17-27、査読あり

（２）谷釜尋徳：「近世庶民の伊勢参宮の旅にみる歩行距離の実際―旅の全行程の検討―」『東洋法学』56 巻 1 号、2012 年 7 月、pp. 59-75、査読なし

（３）谷釜尋徳：「近世後期における庶民の旅の集団歩行に関する研究」『スポーツ健康科学紀要』9 号、2012 年 3 月、pp. 41-62、査読なし

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計１件）

（１）谷釜尋徳，他：『スポーツビジネス概論』(「スポーツビジネスの歴史」の項を執筆)、叢文社、2012 年、pp. 7-12

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

アウトリーチ活動の一環として、下記の講演会において本研究の成果を一般に公開した。

（講演１）
谷釜　尋徳
演題：「江戸庶民の旅と歩行」
主催：東洋大学エクステンション課主催「清水町総合スポーツセンター市民大学講座」
期日：2012 年 11 月 24 日（土）
時間：10:30～12:00
場所：東洋大学総合スポーツセンター

（講演２）
谷釜　尋徳
演題：「江戸時代の道中を現代スポーツの視点でみる―昭島市紅林家所蔵の「道中記」を参考に―」
主催：昭島市公民館主催「公開セミナー」
期日：2012 年 1 月 21 日（土）
時間：14:00～16:00
場所：昭島市公民館

（講演３）
谷釜　尋徳
演題：「近世庶民の旅と歩行」
主催：日の出町教育委員会主催「ひので町民大学」
期日：2011 年 9 月 20 日（火）
時間：13:00～15:00
場所：東京都森林組合

６．研究組織

(1)研究代表者
谷釜　尋徳（TANIGAMA　HIRONORI）
東洋大学・法学部・准教授
研究者番号：40527933

(2)研究分担者（0）

(3)連携研究者（0）